

春	角 春の句は肩の力を抜いてこそ	2024. 5. 29	花	角 花を詠む先句幾万あらうとも	2024. 5. 18
	角 春の句は肩の力を抜けといふ			角 花を詠む古句の幾万あらうとも	
	角 春の句は肩の力を抜くやうに	2024. 5. 30		角 花を詠みし句群幾万ありとても	
	角 春の句は肩の力を抜くがよし			角 花を詠みし俳句幾万あらうとも	2024. 5. 19
	角 春の句は肩の力を抜いてから			角 花を詠みし俳句幾万ありとても	
立春	角 始球式ほどの歓声春立てり	2024. 5. 29		角 花を詠みしホ句は幾万ありとても	2024. 5. 21
	角 始球式ほどの歓声春は来ぬ		角 花を詠むホ句は幾万ありとても		
	角 春立つや大暴投の始球式	2024. 5. 31	角 桜木のホ句は幾万ありとても	2024. 5. 22	
風船	角 風船のヘリウム・アルミニウムかな	2024. 4. 29	角 花吹雪ホ句は幾万ありとても		
遠足	角 校門を遠足バスの高みより	2024. 5. 29	角 飛花落花ホ句は幾万ありとても		
虚子忌	角 虚子の忌の溢るる花を惜みなく	2024. 5. 22	角 花のホ句秀句幾万ありとても		
	角 虚子の忌のこぼるる花を惜みなく	2024. 5. 23	角 花のホ句数は幾万ありとても		
	角 虚子の忌のこぼるる花ををしみなく		角 花のホ句佳句は幾万ありとても		
	角 咲き満ちてこぼるる花の虚子忌かな		角 花詠みの佳句は幾万ありとても		
囃り	角 古寺の寄進の瓦囃れり	2024. 3. 6	角 花よみの佳句は幾万ありとても		
	角 囃や寺に寄進の屋根瓦		角 花ちるや秀句幾万ありとても		
巢箱	角 籠よりも遥かに狭き巢箱かな	2024. 5. 10	角 花ちるや先句幾万ありとても		
	角 鳥籠は広く巢箱は狭きかな		角 花を守る句群幾万ありとても	2024. 5. 23	
	角 籠よりも遥かに狭き巢箱なれど		角 花に酔ふ句群幾万ありとても		
	角 籠よりも遥かに小さき巢箱なれど		角 花の下に句群幾万ありとても		
	角 籠よりも暗く小さき巢箱なれど		角 花の下にホ句は幾万ありとても		
	角 籠よりも暗くて小さき巢箱なれど		角 花下に集ふホ句は幾万ありとても		
	角 鳥籠よりも暗くて小さき巢箱なれど		角 花に酔ふホ句は幾万ありとても		
	角 鳥籠よりも暗く小さき巢箱なれど	2024. 5. 12	角 桜花ホ句は幾万ありとても		
	角 巢箱掛く鳥籠よりも暗けれど	2024. 5. 13	角 山桜ホ句は幾万ありとても		
	角 鳥籠より暗き巢箱を掛けにけり		角 花の山類句幾万ありとても		
角 鳥籠より暗き巢箱でありにけり	2024. 5. 15	角 花満ちて類句幾万ありとても			
	角 鳥籠より暗き巢箱であらうとも		角 花の山花は幾万ありとても		
猫の恋	角 恋の猫大きな虹を引きずつて	2024. 5. 27	角 花の山歌句は幾万ありとても		
	角 恋の猫おほきな虹を引きずつて	2024. 5. 29	角 書架書庫に花は幾万ありとても		
	角 恋猫は大きな虹を引きずつて		角 花の句歌書庫に幾万ありとても		

夏	角 大衆の通俗の夏来りけり	2024. 5. 21	氷河	角 押し寄せる未来の如く氷河崩ゆ	2024. 5. 6
	角 大衆の通俗の原色の夏			角 押し寄せる白紙の未来氷河崩ゆ	
炎天	角 火をふたつ重ねて炎炎天下	2024. 5. 28		角 押し寄せる未来分厚き氷河崩ゆ	2024. 5. 7
	角 炎天と書く火天では足りぬとて			角 押し寄せる氷河未来の分厚さに	2024. 5. 9
	角 炎天と書く火天ではもの足りぬ			角 押し寄せる未来分厚き氷河かな	
	角 炎天と書く火天ではもの足りず			角 押し寄せる氷河分厚く崩れては	
	角 火の又を火で炙るごと炎炎天下	2024. 5. 29		角 押し寄せる氷河分厚く崩れては	
	角 炎天や火の股ぐらを火で炙る	2024. 5. 30		角 押し寄せる氷河分厚きまま崩れ	
	角 炎天や火の股ぐらで火を焚いて	2024. 5. 31		角 押し寄せる氷河分厚く崩れたり	
西日	角 現実と戦つてゐる西日かな	2024. 5. 21		角 押し寄せる氷河分厚き端崩る	2024. 5. 10
	角 現実と闘つてゐる西日かな			角 押し寄せる氷河の端の崖崩る	
	角 現実に苛つてゐる西日かな	2024. 5. 23		角 押し出せる氷河の端を切り落す	
	角 現実のしぶとく燃ゆる西日かな			角 押し出せる氷河の端を削ぎ落す	
	角 現実の燃ゆるが如き西日かな			角 押し出せる氷河の端が削ぎ落され	
	角 現実の燃えて真つ赤な西日かな	2024. 5. 24		角 海に出づる氷河の端を神が削ぐ	
	角 現実の燃えて燃えざる西日かな			角 純白の氷河の端を神が削ぐ	
	角 現実を燃え尽くさんと西日かな	2024. 5. 25	扇風機	角 扇風機内蔵の服膨らめり	2024. 5. 11
	角 現実も西日も燃えてゐたりけり			角 扇風機内蔵の服ふくらめり	2024. 5. 12
	角 現実を前に儂き西日かな			角 扇風機内蔵の服ふくらみぬ	
	角 現実の前の西日に夜が迫る			角 扇風機内蔵の服膨らみぬ	2024. 5. 15
	角 現実の前の西日の後ろに夜				
	角 現実の前の西日を夜が覆ふ	2024. 5. 27			
	角 現実の前の西日を夜がおそふ	2024. 5. 28			
	角 現実を目の前にして西日かな				
	角 現実を目の前にして大西日				
	角 現実を目前にして大西日	2024. 5. 29			
	角 現実を目の前にして西日変	2024. 5. 30			
	角 現実を目の前にして西日の変				
	角 現実を目の前にして西日の乱				
角 現実を目の前にしてなほ西日					
角 目の前の現実が燃ゆ西日中					
角 目の前の現実が消ゆ西日中					
角 目の前の現実みえず西日中					
角 目の前の現実みえぬ西日かな					
角 目の前の現実消ゆる西日かな					
角 目の前の現実見えぬ西日かな					
角 現実を目の前にして西日とは					
角 現実を目前にした西日なり					
角 現実を目前にした西日なり					

心太	角 水を出て水にあらざる心太	2024. 5. 6	祭	角 週明けや祭の塵も少し出す	2024. 5. 21				
	角 海を出て海を忘れし心太			角 週明けや祭の芥も少し出す					
	角 海を出て海を忘るる心太	2024. 5. 9		角 週明けや祭の塵芥も少し出す	2024. 5. 27				
	角 海を出て海を忘るな心太			角 週明けや祭の屑も少し出す					
	角 ところてん海に別れて明るけれ			角 週明けや祭の屑も共に出す					
	角 海を出て波打つごとき心太			角 週明けや祭の屑は燃えるゴミ					
	角 波頭器に沈む心太	2024. 5. 10		角 週明けや祭の屑も分別し	2024. 5. 28				
	角 波頭うつわに沈む心太			2024. 5. 11	鮎	角 鮎を取るにもいろいろと鳥までも	2024. 5. 17		
	角 心太海の底より明るけれ					角 鮎を取る竿、梁、罟、鳥までも			
	角 ところてん海の底より明るけれ			2024. 5. 19		角 鮎を取る竿、網、罟、梁、鶺鴒			
	角 波がしら器に沈む心太					角 鮎を取る竿、網、罟、梁に鶺も			
	角 波頭のみを器に心太			2024. 5. 25		角 鮎を取る竿、網、罟、鶺の鳥も			
	角 心太うつわの中の波頭					角 鮎の竿、網、梁、罟、鶺の鳥も			
	角 ところてん器の中の波頭					2024. 5. 9		蟻	角 蟬の穴黄泉の国から逃れ来し
	角 ところてん海を忘れし波頭								角 はるばると黄泉を逃れし蟬の穴
	角 波音の生れ変りし心太					2024. 5. 12			角 はるばると黄泉より続く蟬の穴
	角 波がしら辛子の利きし心太	角 はるばると黄泉より来る蟬の穴							
	角 波頭崩れし様に心太	角 はるばると黄泉に発する蟬の穴							
	角 荒波を水に晒して心太	角 ある穴は黄泉へと続く蟬の穴							
	角 荒波を梳りたる心太	角 ある穴は黄泉路へ続く蟬の穴							
角 荒波を飼ひ馴らしたる心太	角 その奥に黄泉比良坂蟬の穴								
角 荒波の邪気を抜いたる心太	角 細道の黄泉比良坂蟬の穴								
角 荒波の怒気を抜いたる心太	角 細道の黄泉へと続く蟬の穴								
角 荒波の怒りを抜きし心太	角 細道の黄泉より来る蟬の穴								
角 荒波の俤のある心太	角 ここからは黄泉へと続く蟬の穴								
角 荒波にどこか似てゐる心太	角 ひそやかに黄泉へと続く蟬の穴								
角 荒波といふにあらねど心太	角 蟻の巣の深きを掘つて黄泉路へと								
角 波音のスローモーション心太	2024. 5. 27		角 蟻の巣の深きを掘れば黄泉路へと	2024. 5. 17					
			角 蟻の巣の深きに続く黄泉路かな						
蜜豆	角 蜜豆と冷し中華の色が似て	2024. 5. 14							
海開き	角 海と山少しずらして開きけり	2024. 5. 12		角 蟻の巣の深きを掘れば黄泉路かな	2024. 5. 17				
	角 海山を少しずらして開きけり			角 蟻の巣の深きを掘れば黄泉路あり					
	角 海と山を少しずらして開きけり	2024. 5. 14		角 材木の杉や檜や花は葉に	2024. 5. 21				
	角 海と山を少しずらして開くなり								
	角 海と山少しずらして開くなり	2024. 5. 21		若葉	2024. 5. 21				
	角 海と山すこしずらして開くなり								
角 海と山すこしずらして開きけり	2024. 5. 27		角 飛ぶ鳥に若葉の木あり蛇ひそむ	2024. 5. 21					
			角 飛ぶ鳥が若葉に休む蛇もをる						
曝書	角 戦後すぐの若き句集を曝すなり	2024. 3. 19		角 飛ぶ鳥が若葉に休むしばしかな					
				角 飛ぶ鳥や若葉の木には蛇ひそむ					
			角 飛ぶ鳥や若葉の陰に蛇がゐて						

徴	角 徴臭き部屋のひんやりしてをりぬ	2024. 5. 24	秋の雲	角 湖は大きな鏡秋の雲	2024. 5. 31
	角 徴臭き部屋のひんやり暗きかな			角 湖にうつりつうつる秋の雲	
	角 部屋を嗅ぐひんやりとして徴臭き			角 湖に映りつ移る秋の雲	
	角 もう一度この徴臭き部屋を嗅ぐ	2024. 5. 25			
十葉	角 十葉を抜きしばかりの堀にほふ	2024. 5. 18	天の川	角 釣り糸を垂れて静かな天の川	2024. 5. 28
	角 十葉をまだ抜きたての堀にほふ			角 釣り糸を垂れて深夜の天の川	
	角 十葉を抜きし跡らし堀にほふ			角 釣り糸を垂れて夜更の天の川	
	角 十葉を抜きし跡かな堀にほふ			角 釣り糸を垂れて銀河の静けさよ	2024. 5. 29
	角 十葉を刈りし跡かな堀にほふ	2024. 5. 19		角 釣糸を垂れて銀河の静けさよ	
	角 十葉を刈りしと思ふ堀にほふ	2024. 5. 21		角 釣糸は銀の糸かも天の川	2024. 5. 30
	角 十葉を刈りし跡かな垣にほふ	2024. 5. 26		角 銀の糸ふかく垂らして天の川	
	角 十葉を刈りし跡なり白き塵	2024. 5. 27		角 銀の糸ながく垂らして天の川	
	角 十葉を刈りし跡なり白き塵			角 釣糸を長く垂らして天の川	
	角 十葉を刈りし地べたに白き塵			角 釣糸の金糸銀糸や天の川	
				角 釣糸の銀の手応へ天の川	
				角 釣糸に銀の手応へ天の川	
				角 釣竿に銀の手応へ天の川	
		角 解体のビルの階段春の雨	2024. 5. 27		
		角 解体のビルの階段月今宵			
		角 解体のビルの階段月を待つ	2024. 5. 28		
		角 解体のビルの階段良夜なり	2024. 5. 29		
		角 解体のビルの階段十三夜			
		角 取り壊すビルの階段十三夜	2024. 5. 31		
		角 春のもの映して春の鏡かな	2024. 5. 27		
		角 春の野を映す大きな鏡欲し			
		角 春の野を映す大きな鏡かな			
		角 春の野を映す小さな鏡かな			
		角 秋のもの映して秋の鏡かな			
		角 春の野に出でし小さなコンパクト			
		角 春の野を映す小さなコンパクト			
		角 秋の空映して秋の水面かな	2024. 5. 28		
		角 秋の空映して秋の湖は	2024. 5. 29		
		角 秋の空映して孤独秋の湖			
		角 秋の空映して秋の湖の舟	2024. 5. 30		
		角 秋の空映して秋の湖一壺			
		角 秋空を映して秋の湖一壺			
		角 秋空を映して一壺秋の湖			
		角 秋の空映す大きな水鏡	2024. 5. 31		
		角 秋の空映す近江の水鏡			

運動会	角 今年から弟もゐる運動会	2024. 5. 14	冬	角 天高く鳩次々に鷹と化す	2024. 5. 21
	角 今年から弟も走る運動会			角 鳩つひに鷹の姿に戻る冬	
	角 今年から兄と一緒にの運動会	2024. 5. 15			
敬老の日	角 敬老日死後の未来の果てしなく	2024. 5. 10	小春	角 小春日の象を見てゐる背中かな	2024. 5. 14
	角 敬老日来年もまた会ひませう			角 心臓と肺の押し合ふ春隣	2024. 5. 22
	角 敬老日また来年も会ひませう			角 心臓と肺の揉み合ふ春隣	
菊人形	角 人形は老いず菊人形は枯れ	2024. 5. 7	春隣	角 枯れ果てて朽ち果てて土春を待つ	2024. 4. 29
	角 人形は死なず菊人形は枯れ			角 枯れ果てしものに隠れて春を待つ	2024. 5. 19
	角 菊人形みるみる菊を摘み取られ	2024. 5. 9	春待つ	角 原子力空母寒風吹きすさぶ	2024. 4. 22
	角 菊人形みるみる菊を筆られて	2024. 5. 11		角 寒風や空母甲板だつ広	2024. 4. 23
	角 菊人形終れば菊を筆られて	2024. 5. 17		角 甲板を寒風渡る空母かな	2024. 5. 2
	角 菊人形終りし菊を筆られて			角 甲板に寒風荒ぶ空母かな	
	角 菊人形果てたる菊を筆らるる	2024. 5. 18		角 寒風や空母甲板だつびろ	2024. 5. 12
	角 菊人形果てては菊を筆らるる			角 広々と寒風荒ぶ空母かな	2024. 5. 15
南瓜	角 南瓜硬し煮ればたちまちやはらかし	2024. 4. 29	角 甲板を寒風舐める空母かな		
			角 寒風に舐められてゐる空母かな		
茸	角 毒茸耳の形はしてをらず	2024. 5. 30	角 寒風の舐めるがままに空母かな		
	角 毒茸耳の形をしてをりぬ	2024. 5. 31	角 寒風の舐める空母を発艦す		
	角 その中に耳の形の毒茸		角 寒風の舐める甲板発艦す		
			角 寒風の甲板広し発艦す		
			角 甲板に寒風すさぶ空母かな	2024. 5. 27	
雪	角 枯木に雪暖かさうな寒むさうな	2024. 4. 28	雪	角 枯木に雪暖かさうな寒むさうな	2024. 4. 28
	角 雪の木々暖かさうな寒むさうな	2024. 5. 9		角 雪の木々暖かさうな寒むさうな	2024. 5. 9
	角 外套の白を纏ひし雪の木々			角 外套の白を纏ひし雪の木々	
	角 外套の白さ纏ひて雪の木々			角 外套の白さ纏ひて雪の木々	
	角 外套の白きを纏ひ雪の木々			角 外套の白きを纏ひ雪の木々	
	角 外套の白きを纏ふ雪の木々	2024. 5. 10		角 外套の白きを纏ふ雪の木々	2024. 5. 10
	角 外套の白を纏へり雪の木々			角 外套の白を纏へり雪の木々	
	角 外套の白を纏ふは雪の木々			角 外套の白を纏ふは雪の木々	
	角 外套は純白が良し雪の木々	2024. 5. 18		角 外套は純白が良し雪の木々	2024. 5. 18
	角 外套の純白似合ふ雪の木々	2024. 5. 30		角 コートなら純白が良し雪の木々	2024. 5. 30
白息	角 年用意窓の指紋も見逃さず	2024. 5. 11	白息	角 年用意窓の指紋も見逃さず	2024. 5. 11
	角 白息で窓の指紋を浮き立たせ	2024. 5. 12		角 白息で窓の指紋を浮き立たせ	2024. 5. 12
	角 年用意窓の指紋を浮き立たせ			角 年用意窓の指紋を浮き立たせ	
おでん	角 蒟蒻を買ひ忘れたるおでんでも	2024. 5. 10	おでん	角 蒟蒻を買ひ忘れたるおでんでも	2024. 5. 10
芭蕉忌	角 脱色を掛けし金髪翁の忌	2024. 5. 27	芭蕉忌	角 脱色を掛けし金髪翁の忌	2024. 5. 27
	角 脱色で叶う金髪翁の忌	2024. 5. 30		角 脱色で叶う金髪翁の忌	2024. 5. 30
	角 脱色で叶う金髪芭蕉の忌			角 脱色で叶う金髪芭蕉の忌	2024. 5. 30

兎	角 抱かれてふるへやまざる兎かな	2024. 5. 22	冬の鳥	角 寒禽の種蒔く尻が飛んでゆく	2024. 5. 30
	角 抱かれてもふるへやまざる兎かな	2024. 5. 23		角 寒禽の種蒔く尻が飛び去りぬ	
	角 いだかれてふるへやまざる兎かな			角 寒禽の種蒔く尻と思ひけり	2024. 5. 31
	角 いだかれてふるへやまざる兎の子			角 寒禽の種蒔く尻と思ふなり	
	角 だかれてもふるへやまざる兎かな		枯木	角 冬木の枝少し太きが折れてをる	2024. 5. 14
	角 だかれてもふるへやまずよ白兎	2024. 5. 24		角 長き枝の折れ垂れ下る冬木かな	
	角 だかれてもふるへやまざる白兎			角 長き枝の折れ垂れ下る冬木あり	2024. 5. 15
	角 だかれてもふるへてをりし兎かな	2024. 5. 25		角 長き枝の折れたまなる冬木あり	2024. 5. 16
	角 だかれてもふるへしままの兎かな			角 長き枝の折れしまなる冬木あり	
	角 だかれてもなほもふるへて白兎			角 長き枝の折れて垂れたる冬木あり	
	角 だかれてもなほもふるへる白兎			角 長き枝の折れてぶらぶら冬木あり	
	角 だかれてもふるへてゐたる白兎			角 長き枝のぶら下りたる冬木あり	
	角 だきやれど兎のふるへをきまらず			角 長き枝のぶら下りたる冬木立	2024. 5. 17
	角 白兎だれがだいてもふるへをる			角 ぶら下る長き折れ枝冬木立	
	角 ふるへるよ兎はだれにだかれても			角 長き枝のぶらさがりたる冬木立	2024. 5. 25
	角 ふるへるや兎はだれにだかれても			角 長き枝のぶらさがりたる枯木かな	2024. 5. 27
	角 兎哀しだれにもだかれかつふるへ				
	角 ふるへつつだれにもだかれ兎かな				
	角 ふるへつつだれにもだかれ白兎				
	角 ふるへつつ誰にも抱かれ白兎				
角 ふるへつつ誰にも抱かれ兎の子	2024. 5. 29				
角 ふるへつつ学校兎抱かれけり					
角 ふるへつつ学級兎抱かれけり					
角 学級の兎はふるへつつ抱かれ					
角 ふるへつつクラスの兎抱かれけり					
角 ふるへつつ小屋の兎は抱かれけり	2024. 5. 30				
冬眠	角 冬眠に老いたるものは覚めずとも	2024. 5. 28			
	角 冬眠に飽きたるものは覚めぬまま	2024. 5. 29			
	角 冬眠や老いたるものは覚めずとも				
	角 冬眠に飽きたるものはそのままに				
	角 冬眠や老いたるものは覚めぬまま				
	角 冬眠や老いたるものは起こさずに				
	角 冬眠や老いたるものの深眠り	2024. 5. 30			
	角 冬眠や老いたるものは安らかに				
	角 冬眠の老いたるものよ安らかに				
	角 冬眠の老いたるものは安らかに	2024. 5. 31			
角 冬眠の或いは永遠に安らかに					

去年今年	角 PCのクロック自在去年今年	2024. 5. 22
	角 PCの余力仕事や去年今年	2024. 5. 31
寝正月	角 寝て出来ることの最たる寝正月	2024. 5. 22
乗初	角 初乗の女車掌の指差称呼	2024. 5. 31
	角 乗初の女車掌の指差称呼	
初詣	角 初詣帰りの笑ひ声と会ふ	2024. 5. 31
	角 初詣帰りの笑ひ声に会ふ	